

『 ぜん たい こう ひょう 全体講評 』

にゆうしょう さくひん きょうつう
入賞した作品に共通していることがいくつかあります。

①まず、色をしっかりと使っていること。

いろ うす たと いろえんぴつ ぬ など めだ
色が薄い作品、例えば色鉛筆で塗った作品等では、薄くて目立ちません。目立たないということは、楽しいとか、悲しいとかいう気持ちも伝えることは難しくなります。え ぐ つか え ちからづよ すてき
絵の具をしっかりと使った絵は力強い素敵な絵になりやすいのです。

②次に、馬と人を描いていること。

つぎ うま ひと えが
馬を一頭だけ描いた作品でも良い作品になることはありますが、背景の処理や絵のふん い きづく など ぎじゆつ ひつよう
雰囲気作り等とても難しい技術が必要になってきます。「楽しかった」とか「すごかった」という表現するのが「絵」なので、それには顔の表情がとても有効です。馬一頭だけでそれを表現するのは難しいので、馬は2頭以上で、さらに人間も入れた方がよい絵になりやすいのです。

③そして、画面いっぱいに馬や人を描いていること。

おお ちい がようし
人間よりも大きな馬を小さな画用紙に描いているのですから、小さく描いてはどうしても迫力がなくなります。また、顔が小さいほど、顔の表情を表現することも難しくなるし、絵を見る人にもよく見えない、つまり伝わらないということになります。

しゃしん ちが
絵は、写真とは違います。上手に描くということでは、絵のプロである有名な画家が描いても小学生の写した写真にかないません。でも絵には写真と違う良さがあります。それは、色を自由に変えたり、付け加えたり、邪魔な電線などを取り除いたりなど自由に変えることができるのです。今回上位に入った作品も、本物そっくりに描いてるわけではありません。自分で表現したいように自由に工夫することがよい絵を描くコツなのです。

しんさいん
審査員

きくち つとむ
菊池 勉